



## 平成26年3月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

平成26年2月10日

上場会社名 大東紡織株式会社

上場取引所 東名

コード番号 3202 URL <http://www.daitobo.co.jp/>

代表者 (役職名) 取締役社長 (氏名) 国広 伸夫

問合せ先責任者 (役職名) 経営管理本部経営企画部長 (氏名) 三枝 章吾

TEL 03-3665-7843

四半期報告書提出予定日 平成26年2月10日

配当支払開始予定日 —

四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無

四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

### 1. 平成26年3月期第3四半期の連結業績(平成25年4月1日～平成25年12月31日)

#### (1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
26年3月期第3四半期	5,373	△8.0	150	△32.0	△94	—	△104	—
25年3月期第3四半期	5,839	△2.4	220	△33.5	△24	—	△46	—

(注) 包括利益 26年3月期第3四半期 13百万円 (—%) 25年3月期第3四半期 △53百万円 (—%)

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
26年3月期第3四半期	△3.48	—
25年3月期第3四半期	△1.55	—

#### (2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
26年3月期第3四半期	21,757	4,803	19.7
25年3月期	22,054	4,790	19.6

(参考) 自己資本 26年3月期第3四半期 4,292百万円 25年3月期 4,327百万円

### 2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
25年3月期	—	0.00	—	0.00	0.00
26年3月期	—	0.00	—	—	—
26年3月期(予想)	—	—	—	0.00	0.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

### 3. 平成26年3月期の連結業績予想(平成25年4月1日～平成26年3月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	7,450	△8.9	355	△4.9	55	3.1	30	94.7	1.00

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 有

連結業績予想の修正につきましては、本日平成26年2月10日公表の「業績予想の修正に関するお知らせ」をご参照下さい。

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) : 無  
新規 一社 (社名) 、 除外 一社 (社名)

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数(普通株式)

① 期末発行済株式数(自己株式を含む)	26年3月期3Q	30,000,000 株	25年3月期	30,000,000 株
② 期末自己株式数	26年3月期3Q	65,612 株	25年3月期	65,362 株
③ 期中平均株式数(四半期累計)	26年3月期3Q	29,934,438 株	25年3月期3Q	29,935,641 株

※四半期レビュー手続の実施状況に関する表示

この四半期決算短信は、金融商品取引法に基づく四半期財務諸表のレビュー手続の対象外であり、この四半期決算短信の開示時点において、金融商品取引法に基づく四半期財務諸表のレビュー手続は終了しております。

※業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

業績予想は本資料の発表日現在において入手可能な情報に基づいたものであり、実際の業績は今後様々な要因によって予想数値と異なる可能性があります。

## ○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	4
2. サマリー情報(注記事項)に関する事項	5
(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動	5
(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用	5
(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示	5
3. 継続企業の前提に関する重要事象等	6
4. 四半期連結財務諸表	7
(1) 四半期連結貸借対照表	7
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	9
(3) 四半期連結キャッシュ・フロー	11
(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	12
(継続企業の前提に関する注記)	12
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	12
(セグメント情報等)	12

## 1. 当四半期決算に関する定性的情報

## (1) 経営成績に関する説明

当第3四半期連結累計期間におけるわが国経済は、海外経済の緩やかな持ち直しを背景に輸出が改善傾向にあり、公共投資・住宅投資も増加を続けていることに加え、雇用・所得環境に改善の動きがあることなどから、緩やかに回復しております。ただし、輸入企業にとっては円安分の価格転嫁の成否に業績が影響を受ける環境が続きました。

繊維・アパレル業界におきましては、個人消費が底堅く推移していることや消費増税前の駆け込み需要などを背景に、ラグジュアリーブランドをはじめ比較的高額のメンズ衣料・レディース衣料が回復傾向を示す動きとなりました。ただし、ヤングカジュアル向け衣料の動きは、ブランド毎の明暗が出る展開となりました。

ショッピングセンター業界におきましては、天候不順の影響やヤングカジュアル衣料の動きが一部で緩慢であったことなどの影響を受けて、好調な百貨店業界に比べてやや重たい展開となり、年末にかけての厳しい寒さで冬物商材が動いたものの、全体としては前年をやや下回る結果となりました。

このような状況の中で、当社グループは当期(第194期)から「中期経営計画 Beyond 120th~120周年を超えて未来へ」をスタートさせ、収益力増強のための「成長戦略」と繊維事業の安定的黒字を確保するための「安定化戦略」への取り組みを進めております。

繊維・アパレル事業につきましては、「成長戦略」に基づく強化事業への取り組み強化を進めましたが、「安定化戦略」における基盤事業のうち生産管理型OEM事業の大口先に対する受注減とメンズスーツ事業のスリム化に伴う減収に加え、紳士服販売子会社において秋冬物催事が天候不順の影響で低調となったことなどを主因に、売上高・営業利益とも前年同期を下回る結果となりました。不動産事業につきましては、「成長戦略」の主力事業育成方針の下、静岡県下有数の商業施設である「サントムーン柿田川」においてテレビCM実施、一部店舗のリニューアルおよびクリスマスや年末商戦を始めとした季節毎の効果的なイベント実施などにより、引き続き集客力向上に努めたことなどが奏功し、売上高・営業利益とも前年同期を上回りました。

この結果、当第3四半期連結累計期間の業績は、売上高53億73百万円(前年同期比8.0%減)と減収となったものの、販売管理費の削減効果もあり営業利益1億50百万円(前年同期比32.0%減)と前年同期に続き営業黒字を確保し、これに支払利息負担などを加減した結果、経常損失94百万円(前年同期は経常損失24百万円)となりました。さらに、法人税、住民税及び事業税等を加減した結果、四半期純損失は1億4百万円(前年同期は四半期純損失46百万円)となりました。

セグメントの業績は次のとおりであります。

## (繊維・アパレル事業)

衣料部門につきましては、メンズ衣料は採算の低下しているメンズスーツ事業のスリム化に伴う減収に加え、紳士服販売子会社において秋冬物催事が天候不順の影響で低調となったことなどを主因に売上高が前年同期を下回りました。レディース衣料は円安に伴う輸入品の価格競争激化により生産管理型OEM事業を始め一部大口先に対する受注が減少したことなどの結果、売上高は前年同期を下回りました。

ユニフォーム部門につきましては、官需・民需とも落札実績が前年同期を下回ったことや一部大口先の納品が翌期にずれ込んだ結果、売上高が前年同期を下回りました。

寝装品部門につきましては、当社独自素材であるEウールを活用した寝装品など健康医療関連商材が引き続き好調に推移した結果、売上高は前年同期を上回りました。

この結果、繊維・アパレル事業の売上高は35億70百万円(前年同期比12.1%減)、営業損失は2億21百万円(前年同期は営業損失1億18百万円)となりました。

(不動産事業)

不動産事業につきましては、静岡県下有数の商業施設である「サントムーン柿田川」の順調な集客力を背景に、売上高は前年同期を上回りました。

この結果、不動産事業の売上高は18億3百万円(前年同期比1.5%増)となり、さらに減価償却費の減少もあり営業利益は6億90百万円(前年同期比9.0%増)となりました。

- (注) 1. 上記のセグメントの業績に記載している営業利益は、セグメント間の内部取引を含んだ金額を記載しております。
2. 当社の消費税等に係る会計処理は、税抜方式によっているため、記載した金額には消費税等は含まれておりません。
3. 記載している見通し等将来についての事項は、本資料の発表日現在において判断したものであり、予測しえない経済環境の変化等様々な要因がありますため、その結果について当社グループが保証するものではありません。

(2) 財政状態に関する説明

(資産、負債、純資産等の状況に関する分析)

① 資産

当第3四半期連結会計期間末における総資産の残高は217億57百万円(前期末は220億54百万円)となり、前期末に比べ2億96百万円減少(前期末比1.3%減)しました。主な要因は、現金及び預金の減少2億91百万円、受取手形及び売掛金の減少5億8百万円、有価証券の増加3億99百万円、預け金(流動資産のその他)の増加3億19百万円、建物及び構築物の減少2億50百万円であります。

② 負債

当第3四半期連結会計期間末における負債の残高は169億54百万円(前期末は172億64百万円)となり、前期末に比べ3億9百万円減少(前期末比1.8%減)しました。主な要因は、短期借入金の減少12億29百万円、長期借入金の増加9億6百万円であります。

③ 純資産

当第3四半期連結会計期間末における少数株主持分を含めた純資産の残高は48億3百万円(前期末は47億90百万円)となり、前期末に比べ13百万円増加(前期末比0.3%増)しました。主な要因は、利益剰余金の減少1億4百万円、為替換算調整勘定の増加67百万円、少数株主持分の増加48百万円であります。

(キャッシュ・フローの状況)

当第3四半期連結累計期間における現金及び現金同等物は、営業活動によるキャッシュ・フローで5億32百万円のプラス(前年同期比622.7%増)、投資活動によるキャッシュ・フローで3億49百万円のマイナス(前年同期は33百万円のマイナス)、財務活動によるキャッシュ・フローで2億63百万円のプラス(前年同期は1億53百万円のマイナス)となりました。

これらの各活動に加え、為替相場の変動による現金及び現金同等物に係る換算差額61百万円のプラスを反映した結果、当第3四半期連結会計期間末における現金及び現金同等物の残高は16億1百万円(前年同期比94.1%増)となり、前期末に比べ5億8百万円増加しました。

当第3四半期における各キャッシュ・フローの状況とそれらの要因は次のとおりであります。

① 営業活動によるキャッシュ・フロー

営業活動によるキャッシュ・フローは、5億32百万円のプラス(前年同期比622.7%増)となりました。これは主に、減価償却費3億59百万円、売上債権の減少5億21百万円、仕入債務の減少1億86百万円、利息の支払額2億24百万円によるものであります。

② 投資活動によるキャッシュ・フロー

投資活動によるキャッシュ・フローは、3億49百万円のマイナス(前年同期は33百万円のマイナス)となりました。これは主に、預け金の預入による支出3億19百万円によるものであります。

③ 財務活動によるキャッシュ・フロー

財務活動によるキャッシュ・フローは、2億63百万円のプラス(前年同期は1億53百万円のマイナス)となりました。これは主に、担保提供預金の減少額4億円、長期借入れによる収入22億70百万円、長期借入金の返済による支出25億83百万円および社債の発行による収入2億50百万円によるものであります。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

通期の業績予想につきましては、最近の業績動向等を踏まえ、平成25年5月14日発表の予想数値を変更しております。詳細につきましては、本日平成26年2月10日公表の「業績予想の修正に関するお知らせ」をご参照下さい。

2. サマリー情報(注記事項)に関する事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動

該当事項はありません。

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用

該当事項はありません。

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

該当事項はありません。

### 3. 継続企業の前提に関する重要事象等

当社グループは、平成22年3月期(第190期)において、紳士服販売子会社の不振が損益面に強く影響を与えたことなどにより、連続して営業損失および当期純損失を計上するとともに、「サントムーン柿田川」の第2期開発および第3期開発資金や紳士服販売子会社の赤字運転資金などの負担から、有利子負債額が高水準となっております。当該状況の改善につきましては、相当程度進めているものの、その解消には至っておらず、継続企業の前提に重要な疑義を生じさせるような状況が存在しております。

この状況に対処すべく、当社グループは、平成23年3月期(第191期)から平成25年3月期(第193期)までの3年間にわたり「中期経営計画2010～KAIKAKU～」に基づく諸施策への取り組みを進め、計画の柱である「事業構造の改革」と「コスト構造の改革」をほぼ計画通りに達成しました。また、損益面では2期連続で当期純利益を確保するとともに、財務面では「有利子負債の圧縮」について計画を上回る圧縮を行うなど、損益面・財務面での改善を行いました。

さらに、当期(第194期)からは、新たに「中期経営計画 Beyond 120th～120周年を超えて未来へ～」をスタートさせ、従来の構造改革路線から成長路線へ踏み出すことを基本的な考え方とし、特に最終年度の平成28年3月期(第196期)には当社創立120周年の節目を迎えることを機に、当社グループの永続的発展の基盤作りに取り組む方針としております。

具体的には、収益力増強のための「成長戦略」の一つとして、不動産事業を「主力事業」に育成する方針の下、静岡県下有数の商業施設である「サントムーン柿田川」の運営で培ったノウハウを活かし、商業施設におけるプロパティマネジメント業務の新たな展開への取り組みを進めております。また、もうひとつの「成長戦略」として、当社グループ事業から選択した「強化事業」への取組強化を進める方針の下、従来から注力している提案型OEM事業の中から素材・デザイン提案型OEM事業とニット企画提案型OEM事業の2つの事業と、さらに当社が販売基盤を持ち、かつ市場の拡大が見込まれる健康医療関連事業および中国関連事業の2つの事業の計4事業を選択し、その取り組みに注力しております。

特に、健康医療関連事業については今後の成長性が高いと判断し、平成26年2月1日付で子会社の大東紡寝装株式会社を吸収合併のうえ新たにヘルスケア事業本部を設立し、事業の強化を加速させることとしております。

また、繊維事業の安定的黒字を確保するための「安定化戦略」として、ユニフォーム事業、生産管理型OEM事業および一般寝装品事業の3つの事業を「基盤事業」に位置付け、安定的な受注により確実に収益を確保するとともに、採算の低下しているメンズスーツ事業については「スリム化事業」に位置付け一段のスリム化を進め業績を安定化させるとの方針のもと、それらへの取り組みを進めております。

当第3四半期連結累計期間における経営成績につきましては、上記「1.(1)経営成績に関する説明」に記載のとおり、売上高は不動産事業と寝装品部門が引き続き順調であったものの、円安に伴う輸入品の価格競争激化により生産管理型OEM事業を始めとするレディース衣料で一部大口先に対する受注が減少したことによる減収と採算の低下しているメンズスーツ事業のスリム化に伴う減収に加え、紳士服販売子会社において秋冬物催事が天候不順の影響で低調となったことなどを主因に前年同期を下回りました。その結果、減価償却費の減少や販売管理費の削減があったものの、粗利益の減少をカバーするには至らず営業損益面でも前年水準を下回ることとなりました。このため、平成26年3月期通期業績予想を修正しましたが、順調に推移している不動産事業や寝装品部門が損益を下支えすることに加え、紳士服販売子会社において在庫圧縮効果や今後春夏物の納品が進む予定であり損益が改善する見込みであることなどから、最終黒字は確保できる見通しであります。また、有利子負債額は95億37百万円と前期末比1億85百万円減少しており、有利子負債の圧縮については概ね計画通りに進捗しております。

当社グループといたしましては、当第3四半期においても中期経営計画に基づく諸施策を着実に推進し、平成26年3月期通期では損益面・財務面ともに改善を進め、連結当期純損益の黒字化を達成するとともに、引き続き余剰営業資金により「有利子負債の圧縮」を図る計画としており、継続企業の前提に関する重要な不確実性は認められないと判断しております。

4. 四半期連結財務諸表  
 (1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成25年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成25年12月31日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	1,583,368	1,292,114
受取手形及び売掛金	1,467,518	958,932
有価証券	—	399,990
たな卸資産	674,889	736,278
その他	63,023	406,183
貸倒引当金	△10,590	△9,320
流動資産合計	3,778,208	3,784,179
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物(純額)	7,698,586	7,448,214
土地	9,343,548	9,343,548
その他(純額)	410,674	387,729
有形固定資産合計	17,452,809	17,179,492
無形固定資産	78,898	90,417
投資その他の資産		
投資有価証券	345,012	347,657
破産更生債権等	127,546	127,511
その他	396,120	352,838
貸倒引当金	△124,245	△124,210
投資その他の資産合計	744,432	703,796
固定資産合計	18,276,141	17,973,706
資産合計	22,054,350	21,757,885

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成25年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成25年12月31日)
<b>負債の部</b>		
流動負債		
支払手形及び買掛金	1,177,674	1,008,193
短期借入金	3,490,848	2,260,904
1年内償還予定の社債	—	100,000
未払法人税等	35,537	16,367
返品調整引当金	146,318	117,794
賞与引当金	31,981	20,180
その他	799,670	989,551
流動負債合計	5,682,030	4,512,991
固定負債		
社債	300,000	450,000
長期借入金	5,040,672	5,947,502
長期預り保証金	3,167,604	2,964,555
繰延税金負債	16,937	17,094
再評価に係る繰延税金負債	2,575,733	2,575,733
退職給付引当金	183,986	203,978
資産除去債務	55,571	56,201
その他	241,644	226,154
固定負債合計	11,582,149	12,441,218
負債合計	17,264,179	16,954,210
純資産の部		
株主資本		
資本金	1,500,000	1,500,000
資本剰余金	503,375	503,375
利益剰余金	△2,321,156	△2,425,272
自己株式	△6,971	△6,989
株主資本合計	△324,752	△428,886
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	20,345	21,460
繰延ヘッジ損益	67	28
土地再評価差額金	4,628,550	4,628,550
為替換算調整勘定	3,507	71,198
その他の包括利益累計額合計	4,652,470	4,721,237
少数株主持分	462,451	511,325
純資産合計	4,790,170	4,803,675
負債純資産合計	22,054,350	21,757,885

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書  
 四半期連結損益計算書  
 第3四半期連結累計期間

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成24年4月1日 至平成24年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成25年4月1日 至平成25年12月31日)
売上高	5,839,792	5,373,943
売上原価	4,386,352	4,050,562
売上総利益	1,453,440	1,323,381
販売費及び一般管理費	1,232,886	1,173,305
営業利益	220,553	150,076
営業外収益		
受取利息	7,162	3,562
受取配当金	3,618	3,886
その他	10,177	5,062
営業外収益合計	20,958	12,512
営業外費用		
支払利息	239,824	221,996
その他	26,170	34,781
営業外費用合計	265,994	256,777
経常損失(△)	△24,482	△94,189
税金等調整前四半期純損失(△)	△24,482	△94,189
法人税、住民税及び事業税	30,845	31,268
法人税等調整額	△465	△423
法人税等合計	30,379	30,845
少数株主損益調整前四半期純損失(△)	△54,861	△125,034
少数株主損失(△)	△8,531	△20,918
四半期純損失(△)	△46,330	△104,116

四半期連結包括利益計算書  
第3四半期連結累計期間

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成24年4月1日 至平成24年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成25年4月1日 至平成25年12月31日)
少数株主損益調整前四半期純損失(△)	△54,861	△125,034
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	△13	1,114
繰延ヘッジ損益	306	△38
為替換算調整勘定	1,326	137,482
その他の包括利益合計	1,619	138,558
四半期包括利益	△53,242	13,523
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	△45,383	△35,349
少数株主に係る四半期包括利益	△7,859	48,873

## (3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成24年4月1日 至平成24年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成25年4月1日 至平成25年12月31日)
<b>営業活動によるキャッシュ・フロー</b>		
税金等調整前四半期純損失(△)	△24,482	△94,189
減価償却費	408,474	359,290
貸倒引当金の増減額(△は減少)	△870	△1,305
返品調整引当金の増減額(△は減少)	△22,747	△28,524
賞与引当金の増減額(△は減少)	△12,074	△11,801
退職給付引当金の増減額(△は減少)	14,176	19,992
受取利息及び受取配当金	△10,781	△7,449
支払利息	239,824	221,996
売上債権の増減額(△は増加)	194,830	521,858
たな卸資産の増減額(△は増加)	△35,039	△48,705
仕入債務の増減額(△は減少)	△264,952	△186,349
預り保証金の増減額(△は減少)	△146,569	△206,049
その他	△3,339	263,727
小計	336,449	802,491
利息及び配当金の受取額	10,765	7,426
利息の支払額	△242,257	△224,351
法人税等の支払額	△31,286	△53,129
営業活動によるキャッシュ・フロー	73,671	532,436
<b>投資活動によるキャッシュ・フロー</b>		
有形及び無形固定資産の取得による支出	△26,538	△28,538
資産除去債務の履行による支出	△5,719	—
投資有価証券の取得による支出	△898	△891
預け金の預入による支出	—	△319,600
その他	123	△14
投資活動によるキャッシュ・フロー	△33,032	△349,044
<b>財務活動によるキャッシュ・フロー</b>		
担保提供預金の減少額	—	400,000
短期借入金の純増減額(△は減少)	664,400	△9,600
長期借入れによる収入	500,000	2,270,000
長期借入金の返済による支出	△1,248,520	△2,583,514
社債の発行による収入	—	250,000
リース債務の返済による支出	△62,997	△60,246
自己株式の純増減額(△は増加)	△48	△18
少数株主への配当金の支払額	△6,084	△2,781
財務活動によるキャッシュ・フロー	△153,250	263,839
現金及び現金同等物に係る換算差額	149	61,491
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	△112,461	508,722
現金及び現金同等物の期首残高	937,711	1,093,231
現金及び現金同等物の四半期末残高	825,249	1,601,954

## (4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

## I. 前第3四半期連結累計期間(自平成24年4月1日 至平成24年12月31日)

## 1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント			調整額 (注)1	四半期連結損益 計算書計上額 (注)2
	繊維・アパレル 事業	不動産事業	合計		
売上高					
外部顧客への売上高	4,062,738	1,777,054	5,839,792	—	5,839,792
セグメント間の内部売上高 又は振替高	84	734	819	△819	—
計	4,062,823	1,777,788	5,840,612	△819	5,839,792
セグメント利益又は損失(△)	△118,466	633,754	515,287	△294,733	220,553

(注) 1. セグメント利益又は損失(△)の調整額△294,733千円は各報告セグメントに配分していない全社費用であります。全社費用は、報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

2. セグメント利益又は損失(△)は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

## 2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

## II. 当第3四半期連結累計期間(自平成25年4月1日 至平成25年12月31日)

## 1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント			調整額 (注)1	四半期連結損益 計算書計上額 (注)2
	繊維・アパレル 事業	不動産事業	合計		
売上高					
外部顧客への売上高	3,570,693	1,803,249	5,373,943	—	5,373,943
セグメント間の内部売上高 又は振替高	120	2,273	2,393	△2,393	—
計	3,570,814	1,805,522	5,376,337	△2,393	5,373,943
セグメント利益又は損失(△)	△221,967	690,978	469,011	△318,935	150,076

(注) 1. セグメント利益又は損失(△)の調整額△318,935千円は各報告セグメントに配分していない全社費用であります。全社費用は、報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

2. セグメント利益又は損失(△)は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

## 2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。